

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 11 月 10 日（日）

場 所：北学田公民館

出席者：北学田公民館 12 人

1. 開会

2. 町長挨拶

※配布資料確認および日程説明

3. 今年度のまちの動き（資料①）

※質疑応答

4. これからのまちづくり（資料②）

5. 懇談

6. その他

(1)出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）

※質疑応答

7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院の問題は非常に重要。建て替えにはお金がかかるので、他の町と協力して出し合い、総合病院を建ててほしいという意見や、規模を縮小しても町内に病院を作るべきだという意見がある。

町民：

医療設備として MRI がほしい。日赤病院で早期発見し、札幌市の病院で手術するのが理想。財政と相談して決めてほしい。

町民：

町民の多くは日赤病院で診てもらいたいのが、急患の場合は断られることもあるようだ。

町長：

担当医ではない医師が診断すると、後から問題になるケースもある。

福祉総括：

まず日赤病院で診断してもらい、札幌市の病院に移送するやり方を徹底したい。脳の病気など重大な病気は札幌市や岩見沢市の病院に依頼することになるが、初期の対応はこれからも日赤病院にお願いしたい。

町民：

孫が日赤病院で軽い風邪と診断されたが、数日後も熱が下がらず、他の病院に入院した。日赤

病院の信頼度が下がれば、町民は別の大きな病院に診てもらいたいと思うだろう。

町長：

医師と患者の間の信頼関係は大切。北海道新聞に掲載された病院の統合問題は、厚生労働省が机上で出したもの。増加する国の医療費を抑えるための政策。

【若い世代の活躍について】

町民：

何か明るい話題はないのか。

町長：

若い世代が SNS により「若者のまち くりやま」として町の魅力を全国に発信している。

小規模だが新規就農者が 25 人いて、7 割が定住している。

地域おこし協力隊は駅前通りで café&bar「くりとくら」を経営しているほか、現在は研修中だが、農協のレンガ倉庫に設置する DIY 工房に隊員が 2 人入る。若い方の力で町が元気になると思う。

また、佐賀県と福岡県に農業の視察で行ったとき、新規就農者向けのイチゴの栽培支援を見学した。面白い取り組みであり、町でも参考にしたい。

教育長：

野球・サッカー・弓道の選手が全国大会や全道大会に出場した。スポーツで優秀な成績を収めた子が高校・大学と進学し、今度は教える立場になりたいと言っていた。

町長：

これからも若い世代につないでいくまちづくりをしていきたい。

【光回線の設置について】

町民：

光回線や Wi-Fi の設置はどのぐらい進んでいるのか。

町長：

道に要請活動をしていきたい。

町民：

町でも作業を進めてほしい。

町長：

これからは ICT による農業支援が重要になる。福岡県の視察で ICT の情報センターに行き、有線を引きなくても光 Wi-Fi をつなげられる装置を見学した。現在、農業振興公社が調査を行っているので、これから基盤整備を進めていく。

【出前型政策・施策説明会について】

町民：

出前型政策・施策説明会には、職員は何人ぐらい来るのか。

まちづくり総括：

2～3人を予定している。